

「事業の継承、感謝の心を持って」

唯一無二の商品を

かくりき商店は、大正時代にイワシの巻網漁で干物や魚油・油かすの加工を始めた祖父が初代で私が3代目となります。

祖父が昭和8年の三陸津波で全てを失ったのを見て、2代目となる父は震災後、船舶の機関士となり、竜神丸という船を持つ一方で海苔の養殖を始めました。私も学校を卒業後は父の手伝いをしていましたが、宮城県女川の漁業仲間から「いいものを作れば高く売れるぞ」と、今でいえば商品の高付加価値化の大切さを教わり、生ウニの加工をはじめました。そして昭和59年、37歳の時に父が漁協の役員となったこともあり、事業を継ぎ、個人商店を有限会社とし、現在に至っています。

事業の継承以来、私が心がけてきたことは、誰にも真似のできない、他より秀でた商品を作ることです。今では当社の主力商品となった「塩

うに」「塩いくら」ですが、お客様に少しでもおいしいと認めてもらうことに腐心し、日々試行錯誤を重ね、納得のいく商品を作るのは並大抵のことではありませんでした。

なぜなら、「少しでもおいしく」の、「少し」が難しいのです。「いつ、何時に作った」「外の気温・湿度は、攪拌機の温度は」「処理時間は」「何時に入って、何時に出した」等々：1日の環境条件に加え、感じた事や考えたことを、とにかくノートにメモして比べる。「一番いいものを作る」の一心で、そのような日々の繰り返しでした。

そしてノートが数十冊を超えた時に、目指していた商品が出来上がりました。あの時の感動は今でも忘れられません。秋鮭メスの生卵を原料とした「塩イクラ」は築地市場で高評価をいただき、有名料亭から「かくりき商店の商品でなければ」との指名を頂くまでになりました。

しかし、現状に満足するのではなく、日進月歩の精神で日々精進していくことが大切です。これで良いと思ってしまうえば、その先に進むことはできません。

ターニングポイント／父から息子へ

三陸津波に続き東日本大震災では、工場施設4棟と自宅、車両、機械設備すべてがなくなりました。その半年前に先代の父を亡くしたばかりでしたが、父と二人三脚で築き上げてきたものが、一瞬で崩壊してしまったのです。

あまりの出来事に瓦礫を前にしばし茫然としていたその時、息子が後ろから私の肩を叩き、「従業員さんも、家族もみんな無事でよかったです。今まで海からたくさんのお恵みももらって生きてきた。俺たちは財産すべてを失ったが、ひとつも惜しくはない。俺はまた、海からこれまで以上に豊かな恵みももらうから」といつてくれた



有限会社かくりき商店
(宮古市)
代表取締役社長

小堀内 徳雄

のです。

思い起こせば、より良い商品を作るために情熱のすべてを捧げてきた私の人生でしたが、幼いとはかり思っていた我が子も遅く成長したのだと実感した瞬間でした。現在は37歳になる息子ですが、ちょうど私が父から会社を引き継いだ年齢で、専務として経営の全般を担っています。

子ども達には、「好きなことをしなさい」と言ってきましたが、その息子が3代続くこの仕事を選んだことを誇りに思っています。

誠心誠意、真心で接すること、時間を守ること、事前準備をしっかりとすること、そのために後片付けを徹底すること、使ったものは元の位置に戻す、使う前よりも綺麗な状態にする、整理整頓と、当たり前前のごことを心掛けてきました。あまり多くを語らなくても、子は親の背中を見て育つのかも知れません。そして、陰となり日向となり一生懸命に支えてくれた妻には心から感謝しています。

地域への感謝と貢献

復興は、従業員をはじめ関係各位のご協力のもと、4ヵ月後には一部の製造ラインを再開することができました。地域の方々をはじめ、これほどまでに人とのつながりの有難味を感じたことはありませんでした。

地域のために、私にもっとできることはない



当社の主力商品「塩うに」と「塩いくら」

だろうか、今まで以上に地域貢献を意識するようになりました。そこで、これまでは冷凍・冷蔵・水産加工業と事業を拡げてきましたが、今度は被災した業者とグループを作り、卸売業を始めました。

そして、良い商品をより安い価格で直接お客様に提供することを目的に、小売業も始めました。このたび、再オープンした宮古市赤前の宮古運動公園の向かいにある「きとがんせ」です。「どうぞ来てください」という意味の地元の宮

古弁で、地域の人が親しみやすいように考えたネーミングです。

(株)川秀、(株)おがよし、共和水産(株)、(株)佐幸商店、柳沢商店、阿部包装資材店との7社で企画運営しています。業種を問わず横の連携を強め、地域力の向上を図ることを目的に、「地域に住む一人一人が元気になることが本当の意味での復興である」との思いで立ち上げました。復興の際に再認識した人の優しさ、思いやり、感謝する心が今の私の原動力です。今に感謝する気持ちを大切にしています。

時代の流れを読んで

現代においては、とりわけ時間の流れるスピードが速いと感じています。その時々々のニーズを踏まえたうえで、常日頃から柔軟な対応を心掛けていく必要があります。

専務の息子を中心に、業務改善を視野に入れたITや人工知能・AIを活用する動きも始まっています。

私書き綴ったノートは、更なる加工の高度化をはじめとした生産管理の強化に向けて、データとして社内に蓄積され、継承されていきます。さらには生産に止まらず、仕入・販売等、卸・小売のマーケティングにもITを活用し、「継続は力なり」をモットーに、これからも経営力・技術力・対応力に磨きをかけ、「信頼」を次世代に継承していきたいと考えています。